

令和2年度の児童相談所における児童虐待相談対応件数(速報値)の詳細

①虐待相談の経路別(主なもの)

警察からの相談対応件数が最も多く、次いで学校からとなっている。

	令和元年度(構成割合)	令和2年度(構成割合)	増減<R2年度-R元年度>(増減率)
家族	45(6.3%)	59(8.1%)	+14(+31.1%)
近隣・知人	36(5.1%)	23(3.2%)	-13(-36.1%)
警察等	254(35.8%)	258(35.4%)	+4(+1.6%)
学校等	175(24.7%)	208(28.5%)	+33(+18.9%)
その他	199(28.1%)	181(24.8%)	-18(-9.0%)
合計	709(100.0%)	729(100.0%)	+20(+2.8%)

②主な虐待者別

実父が増加し、実父と実母がほぼ同じ割合を占めた。

	令和元年度(構成割合)	令和2年度(構成割合)	増減<R2年度-R元年度>(増減率)
実父	279(39.4%)	327(44.9%)	+48(+17.2%)
実母	341(48.1%)	323(44.3%)	-18(-5.3%)
その他	89(12.6%)	79(10.8%)	-10(-11.2%)
合計	709(100.0%)	729(100.0%)	+20(+2.8%)

③虐待の種類別

前年度に引き続き、心理的虐待の割合が約5割を占めた。

	令和元年度(構成割合)	令和2年度(構成割合)	増減<R2年度-R元年度>(増減率)
身体的虐待	215(30.3%)	232(31.8%)	+17(+7.9%)
ネグレクト	135(19.0%)	113(15.5%)	-22(-16.3%)
性的虐待	11(1.6%)	15(2.1%)	+4(+36.4%)
心理的虐待	348(49.1%)	369(50.6%)	+21(+6.0%)
合計	709(100.0%)	729(100.0%)	+20(+2.8%)

④被虐待者の年齢別

前年度に引き続き、小学生の割合が最多となった。

	令和元年度(構成割合)	令和2年度(構成割合)	増減<R2年度-R元年度>(増減率)
0~3歳未満	101(14.2%)	92(12.6%)	-9(-8.9%)
3~学齢前	158(22.3%)	177(24.3%)	+19(+12.0%)
小学生	281(39.6%)	274(37.6%)	-7(-2.5%)
中学生	107(15.1%)	114(15.6%)	+7(+6.5%)
高校生・その他	62(8.7%)	72(9.9%)	+10(+16.1%)
合計	709(100.0%)	729(100.0%)	+20(+2.8%)

⑤児童相談所別

6児相のうち3児相で、相談対応件数が前年度より増加。

	令和元年度(構成割合)	令和2年度(構成割合)	増減<R2年度-R元年度>(増減率)
中央児相	159(22.4%)	152(20.8%)	-7(-4.4%)
岩国児相	152(21.4%)	149(20.4%)	-3(-2.0%)
周南児相	126(17.8%)	136(18.7%)	+10(+7.9%)
宇部児相	140(19.7%)	148(20.3%)	+8(+5.7%)
下関児相	81(11.4%)	115(15.8%)	+34(+42.0%)
萩児相	51(7.2%)	29(4.0%)	-22(-43.1%)
合計	709(100.0%)	729(100.0%)	+20(+2.8%)